

## 審 議 会 会 議 録

会議名称	令和元年度第1回 伊達市環境審議会		
議 題	■諮問（1件） 伊達市環境白書（令和元年度版）について ■議事（1件） 伊達市環境白書（令和元年度版）について		
開催日時	令和2年1月23日（木）9時55分～11時05分		
場 所	伊達市役所第2庁舎 会議室1		
出席者	出席委員11名（欠席委員2名）		
	所管部課名	経済環境部環境衛生課 （経済環境部長・環境衛生課長・環境衛生係3名 計5名）	
公開 非公開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	無し
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<b>【会議の概要】</b>			
<b>1 開 会</b>			
◎変更のあった審議会委員の紹介及び事務局の紹介 ◎事務局より、委員定数13名中11名出席により会議が成立していることを報告			
<b>2 諮 問</b>			
(1) 伊達市環境白書（令和元年度版）について ◎経済環境部長（市長代読）より会長へ諮問			
<b>3 議 事</b>			
(1) 伊達市環境白書（令和元年度版）について ◎会長挨拶の後、事務局より資料の訂正報告に続き、伊達市環境白書（令和元年度版）の内容を説明			
<b>&lt;質疑応答&gt;</b>			
■会長：白書というと、かたいイメージがあるが、審議会で皆さんにご協力をいただき、年々、段々と市民の方に関心を持ってもらえるよう、ずいぶん見易くなったと思います。事務局も、審議会の意見を聞いて、興味を持ってもらえるように工夫してもらい、ありがとうございます。			
■委員：昨年度の審議会は、2月以降は開催していない、ということでいいですか。			
<input type="checkbox"/> 事務局：平成31年2月28日が最後の会議でした。			
■委員：白書自体は平成30年度から特に変えていないのですか。何か新しく付け足すですか。			
<input type="checkbox"/> 事務局：大きく変更した点はありません。			
■委員：何か理由はありますか。			
<input type="checkbox"/> 事務局：基本的には、前年度の施策を整理し、まとめて公表しているものですが、今回は、前年度までと取組み自体は同様のものとなっています。			
■委員：市民からの意見の中で、海岸漂着物、マイクロプラスチックに関する意見が出て			

いましたが、それに対して、何か調査などの取組みをしているのかな、と。色々な市町村で色々なものが流れ着いていると聞きますが、伊達市は内海だから、それほどでもないかもしれないが。意見提出時期と取組みができる時期が前後しているのかな、と思ひまして。

□事務局：国や北海道の、海岸漂着物などに関する通知や調査などにはありますが、市独自の、白書において公表するような、具体的な取組みや実態調査といったことは実施していません。海岸漂着物自体は、近年のマイクロプラスチックの話が出てくる前から取組みがありますが、海岸漂着物に関しては、ボランティア清掃で集めたごみを市で片付けるといったことは以前よりあります。そういった意味では、そういった取組みも白書に掲載してもよいかもしれません。

■会長：マスコミなどで、そういった問題を取り上げてもらうことで、市民の方への啓発や、関心を持つ機会となるので、ぜひ取り上げてもらえれば、とは思ひます。

■委員：去年の会議でも発言したかもしれませんが、外国人の方が伊達市にも増えてきたことで、ごみの出し方が複雑でわからないとか、地域の方から、ごみの出し方が悪いなどの苦情や問合せなどは市にありますか。

□事務局：今のところは特にありません。一般的な問題として、ごみの出し方に関するルール違反やマナー違反のご連絡などはありますが、外国人の方の出し方によるものというものではありません。

■委員：今、ごみの話がありましたが、昨年の11月7日に、ロータリークラブさんが、ボランティア活動で、浜辺のごみ拾いをやったという新聞記事がありました。私も趣味で海釣りをするが、釣りに行くと、ごみが散乱していてひどい状況です。こういったごみ拾いのような活動をしないと、ごみは無くならないと思ひます。空き缶やペットボトルがたくさん捨てられていて、私はもちろん自分のごみは持って帰るが、審議会の会議などで話し合う活動も必要だが、身近な、ごみ拾いなどの活動をしていかないと、地球環境が良くなることはないと思ひます。市で、そういった活動を計画しているのかお尋ねしたいのと、もう一つ、十勝総合振興局で、2月に地球温暖化防止に関するシンポジウムというのが開催されるらしいが、胆振では、そういった開催予定、計画などはありませんか。環境審議会の委員をしているが、国単位などの取組みでは、話が大きすぎて、身につまされないというか、もっと身近なものの情報があればと思ひます。

□事務局：1点目のご質問ですが、一般論として、ごみのポイ捨てや、普段の生活でのごみ出しマナーなどに関する周知などは行っていますが、海岸にポイントを絞って、という形での啓発などは行ってはいないのが現状です。一方で、ボランティア清掃に関しては、そういった活動をしている団体を市に登録してもらう、アダプトプログラムという制度があり、ボランティア清掃活動を行う際には、公用のごみ袋や軍手などを支給する取組みは行っています。それから、十勝でのシンポジウムのお話ですが、胆振でそういったものを開催する予定、情報などは市には来ていない状況です。

■会長：一時、市民を巻き込むような取組みが、流行のように行われた時期があったが、最近では、マチ全体での環境に関するニュースだとか、そういったものがあまり無い状況だと思ひます。子供会による空き缶ゼロ運動、海岸地域では海岸の清掃なども、昔は盛んにおこなわれていたが、最近では、市民清掃はあるが、そういった

機会も減ったと思います。市でも、大げさでなくとも、地道に、コツコツと啓発を続けてもらえればと思います。

■委員：白書の内容的には、かなりいいものができたとは思いますが、じゃあ、これを知っている市民がどれくらいいるのか、ということが問題だと思います。ボランティア団体の登録制度のお話もありましたが、例えば、家電リサイクルの話など、そういったことを知らない人が結構多いのが現状です。白書のようなものを作るのはいいのですが、どれだけ市民に浸透させるか、その方法を考えていくことが重要で、そうしないと、この会議でたくさん議論しても変わっていかないと思います。市としては、白書の表紙に「ご自由にお持ちください」という記載をして、窓口においておくと思いますが、これをお持ちになる方は、こういうものに関心のある方だけだと思いますが、関心の無い方に関心を持ってもらうことが一番大事なことだと思います。そういった手法も考えていかないと、例えば、この内容を更に噛み砕いたものを学校に配布するとか、そういう活動もできるかと思っています。そういうことも考えてみてはどうでしょうか。

■会長：マスコミや学校などにも協力してもらって、粘り強く、コツコツ取り組んでいく必要があると思います。

□事務局：今の委員のご意見はまさにその通りで、環境分野はもちろん、他の分野でも、関心の無い方に関心を持ってもらうということは、大変重要である一方、大変難しいことだと感じています。どうやったらいいか、ということを考え続けていく必要がありますが、関心の無い方を巻き込んでいくというのは、なかなか難しいな、というのが現状であります。会長のご意見にもありましたが、粘り強く、コツコツと継続性を持って取り組んでいく必要性について、ご意見を聞いて、改めて認識したところであります。少し余談ですが、うちの子がこの冬休みに、学校を通じて市に提出をお願いしている「こどもエコ川柳」について、どんなことを書いたらいいのかと相談してきました。ごみ問題や地球温暖化問題など、環境には色々な問題があるという話をし、エコ川柳を考える手伝いをしました。家庭において、そういった環境に関する会話、そういった話をする機会が生まれたところですが、各学校においても、リサイクルなど、環境に関連した様々な取組みをされていますので、10年、20年先のことを考える意味でも、お子さんを巻き込むような取組みを継続する必要もあると考えています。

■委員：海岸線に、よく浮き球や漁網が積み上がっていたりしますが、処理の仕方がわからないのであれば、処理方法を周知する必要もあると思います。農家の方のビニールは、しっかり処理方法があると聞いていますが、漁業についてはどうなのでしょう。処理にお金がかかるなら、補助を出すとかも必要があるのではないのでしょうか。産業なので、責任を持ってやってください、という考えももちろんありますが。

□事務局：それぞれの漁師さんは、処理の方法はわかっていると思います。道でもマニュアル的なものもあり、例えば、漁業系の廃棄物でも、産業廃棄物に当たるとか、事業系一般廃棄物に当たるとか、そういう分類表もあるはずですが、皆さんそれぞれ経営者ですから、それぞれの責任で処理、処分をするということになってはいるのですが、現実的には、そういうことにはなっていない、というのが現状です。組合でも言っているとは思いますが、最終的には、個々の責任で、それぞれ

の人がどうするのか、という判断になってくると思います。海岸に置きっ放しだとかについては、行政の指導が必要な場合もあるかとは思いますが、現実的には難しい問題となっているのが事実です。

■会長：アメリカに日本のごみが流れ着いた問題や、日本に韓国の文字が書かれたごみが流れ着く問題など、世界的な問題になっていると思います。

■委員：会議の案内と環境白書が送られてきて、家で読んでいて思ったのは、環境問題は一国だけの問題ではなく、世界中の大きな問題となっています。先日も、国連の環境問題の会議が開かれましたが、日本が世界から批判されているとのことでした。海のごみの問題などは、伊達市だけが何か取り組んだだけでは、世界中の環境が変わるわけではなく、世界が一つになって、共通理解のもとで取り組まなければならないと思います。この環境審議会でも、現状の分析などだけではなく、国や世界にアピールするような姿勢、例えば市や市議会へ、国などに対する要望などを上げてもらうよう働きかけるようなことをするのも一つのやり方だと思います。小さな力では、もう対処できない状況になっていると感じています。地球の平均気温が少し上がっただけでも、気候の大きな変動につながるとの指摘もされているので、そういうことを考えると、もっと大きな方向に向かっていけるような運動を起こしていくことも一つのやり方だと感じました。

■会長：今のご意見は本当に理想的ですが、なかなか国や北海道へは伝わっていかない、難しい問題もあると思います。ただ、一人一人、地域ごとにできる取組みをしながら、そういう理想を持って取り組む必要があるとは思っています。

■委員：環境の話をする、とどんどん大きな話になりがちですが、やはり、伊達市の話をしていく必要があると思います。例えば、昔、ごみの有料化が始まりましたが、有料化は伊達市が全国で最初に実施したものです。そういうような切り口で、今の白書の記載のように、まんべんなく全般的にやるよりも、的、ポイントを絞って伊達から発信していくということではできないのではと思います。伊達から有料化が始まって、今は全国で有料化が進んでいます。取組みの入口は小さくていいと思いますが、それを継続していくことが大事だと思います。せつかく、いい意見がたくさん出ているので、実現可能なものと、そうではないものを整理して、実現可能なものを見つけて、それに新たに組み込んでいくこと、それが、この環境審議会ですることなのか、別の団体ですることなのか、そういうことも含めて考えていくのがいいのかな、と思います。

■委員：白書の12頁に、公共施設での太陽光発電に関する記載があり、7施設が紹介されていますが、これ以外にも太陽光発電をしている公共施設はありますか。

□事務局：市の公共施設で太陽光発電をしているのはこれで全てです。

■委員：太陽光発電ができる施設を今後増やしていくような考えなどはありますか。例えば、自治会などで使用している会館、集会所などに新たに設置するなどですが、小さい規模の施設でも、そういった施設を利用した方が、自分の家にも太陽光発電設備をつけようかと考えたりするきっかけになればと思いますが。

□事務局：二酸化炭素の削減という意味では、太陽光発電が広がれば一定の効果はあると思いますが、やはり、経費の話がどうしても出てきてしまいます。設置にはそれなりのコストもかかりますので、公共施設については、新しい施設を建設する時の議論の中で、採算や色々なことを検討した上で、設置するかどうかを決めること

となりますので、その施設ごと、その時々状況によって決まってくるかと思えます。

■委員：事務局の話を補足しますが、爆発的に太陽光発電が増えた理由は、国で20年間、定額で電気を買取る制度が始まったためですが、その買取価格が、電気料金に含まれることになっています。例えばですが、1,000円の電気代だったのが、買取価格分、逆に増えて、1,500円になってしまう、というようなこととなりますが、それが、現在問題となっていて、今後、定額買取制度は無くなることになると思います。そうすると、太陽光発電をしている施設は、買取ではなく、自分の所でその電気を使って下さい、ということになっていくと思います。ただ、そのためには、蓄電池というものが必要ですが、これが、一般、民間レベルで使えるようなコスト、金額のものがまだ無い。ただ、30年後には再生可能エネルギーによる電気の使用量が、現在の30%ほどから、70%ぐらいの割合になるだろうと言われているので、このあとの10年、20年ぐらいは、再生可能エネルギーが過渡期になってくるだろうと思います。それと、制度開始当初に作られた太陽光発電施設の買取期間が、あと2、3年ほどで終わるので、太陽光パネルを処分できる場所が北海道にできるのかどうか。現在は、太陽光パネルを処分できる場所が無いので、国で検討はしているようですが、今後は、太陽光パネルについては、コストの割にはリターンが無い、ということになってくると思います。

■委員：自然災害での停電の時に、家の太陽光発電で電気が使えたという話もあったようで、そういう時には役に立つのかと思っていたのですが。

■委員：昼間はいいですが、先ほど言った、膨大に金額が高い蓄電池というものが無いと、夜は太陽光発電の電気は使えないので、現在、太陽光発電をしているところは、買取してもらうためにつけている形になっています。買取が目的なので、現在太陽光発電をしているところは、エコが目的というものではないと思います。昨年度の会議でも、将来的な太陽光発電パネルの不法投棄の懸念についてお話し、後日、環境省での検討状況の資料を環境衛生課からいただきました。

□事務局：問題があった際、技術開発などで新しい解決策ができると、それで解決できるということで、全力で解決しようと取り組みますが、何年後かにその技術の欠点がわかってくると、今度はその対応をどうするか、ということになることが多く、昭和の時代には当たり前だと思っていたことが、平成になって問題になり、対応をどうしたらいいか、ということが多々ありますが、ただ、最後に行きつく先は結局、ごみ、ということになります。PCBなどもそうですが、最初は、誰も問題があると思っていなくて使うのですが、時代が変わり技術が進歩すると、新たな問題が浮上してくる。そういったことは、ある意味仕方がないことなのかな、と思います。問題が起きると、国で対応策やルールを決め、それに従って対応、処理などをやっていくしかないのかな、とは思っています。

■委員：昔は、日本の技術であれば、日本の企業が責任を持って対応なりをやっていたと思いますが、メガソーラーの大きな問題は、大半が海外企業によるものということだと思います。大規模な太陽光発電施設、パネルが不法投棄され、設置者がそのまま海外に帰ってしまう、といった心配があり、20年後ぐらいにどうなっているのか懸念される場所ではあります。

■会長：色々なご意見がありましたが、今回の環境白書について、改めてご意見などはありませんでしょうか。

■委員：環境白書は毎年作成していて、見てみると、このデータの量というのはすごい量になっていると思います。積みあがったデータが、昨今の気候の変化などもありますが、将来的な問題解決のための資料、切り口になるといった可能性もあるかと思しますので、そういうことも含めて、市民に周知していくというか、環境が変わってきているこういう時代だからこそ、これまでのデータも役に立っていきますよ、というような、そんな意識を市民の方も持って下さい、というような形もいいのではと思います。過去のデータと比較して、自分の生活パターンを変えてみるだとか、そういうことを意識して暮らしてみして下さい、といった形で周知していくというのも一つのやり方かもしれないと感じました。

□事務局：実は先日、事務局内でも、過去のデータの活用や見せ方などに関して話をしました。何かを周知し、伝えようとした場合、漠然と、「何か取り組んでみましょう」だとか、「こういう風にしましょう」という言葉だけだと、読んで、その時はわかったつもりになってもその場で終わってしまうのかな、と思います。ただ、具体的な数字があると、「なるほど」と思ってもらえる、説得力につながるのかなと感じています。

□事務局：市民の方が、市の情報で一番関心を持つのは、やはり公共料金の値上げだとか、サービスの変更、といった話題だと思います。環境に関しても同様で、例えばの話ですが、「昔よりごみの排出量がこれだけ増えています、コストがこれだけかかっています。なので、ごみ処理手数料は現在は1袋80円ですが、このままいくと、将来、これだけ値上げさせてもらうことになってしまいます」といった見せ方だとインパクトがあると思います。将来的には、そういったことを考えなければならない時期もくるとは思いますが、そういうことにならないためには、市民の皆さんに、「今どうしたらいいか、何かいい知恵はないでしょうか、どうやったらごみは減るでしょうか、どうやったら自分達の家計の負担も増えないでしょうか」といったイメージを持ってもらって、こういう問題に取り組んでいく、というのも一つの切り口ですし、先ほどのご意見のような方法も一つのやり方だと思います。ですから、膨大なデータをうまく使うようなやり方もありますし、先ほど話のあった、子どもの教育から、子どもを巻き込んで、といった視点、方法もあるかと思えます。この環境白書はそういったことのベースになりますし、うまく使って、工夫して周知していく方法も考えていきますので、皆様におかれましても、それぞれの立場で、色々な場でPRしていただける場もあるかと思しますので、そういったご協力をしていただけるとありがたいな、と思っているところであります。

■会長：その他、何かご意見はありますか。  
無ければ、本日の議事は終了いたします。

#### 4 その他

◎事務局より、次回会議日程（予定）及び委員改選について説明

#### 5 閉会